



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2022年
1月17日
発行

第119回 「インフレとデフレの長期的分析」

～インフレが続くと考える理由～

初めに

前回の続編です。前回は足元のインフレの原因についてでしたが、今回はインフレの今後の見通しについてお話しします。

短期的見通し

短期と長期に分けて考えます。短期的には今回のインフレは今年の7～9月には沈静化に向かうと見ています。理由は米国の中間選挙が11月に予定されていることです。しかしこのインフレは富裕層が多い共和党支持者よりも、貧困層が多い民主党支持者を直撃します。そうなれば既に支持率が低下しているバイデン氏が更なる苦境に立たされることは間違いないでしょう。こうした状況を避けるため、バイデン氏はFRBを通じて金融引き締めを加速させると見ています。これが7～9月までにインフレが収まると見る理由です。

長期的には物価が上がりやすい状況が続く

短期的にはインフレの沈静化を見込んでいますが、長期的にはインフレとまではいかないまでも物価が上がりやすい状況が続くと見ています。理由は今後企業にとってのコストの増加が見込まれることです。例えば前回デフレの原因として指摘したグローバル化ですが、人権問題等もあり今後は海外の安い労働力に依存することは難しそうです。また環境問題についても企業にとってビジネスチャンスではあるものの、CO2排出削減義務からコスト増にもなります。更に2022年度から企業に重要インフラなどのサイバー防衛が義務付けられる予定です。このように今後企業の負担は益々重くなり、最終的にこうしたコストは顧客に転嫁されると思います。これが長期的には物価が上がりやすい状況が続くと見る理由です。

円安とリスクシナリオ

最後にリスクシナリオに触れておきます。これは日本特有のリスクです。足元で円安が進んでいます。これは今後米国の金利上昇が見込まれることから、円を売ってドルを買う動きが活発になったため、というのが大方の見方だと思います。自分もこの見方に反対する訳ではありませんが、それ以外の要因もあるのではないかと懸念しています。それは日本の財政の悪化です。文藝春秋2021年11月号で矢野康治財務事務次官が「このままでは国家財政は破綻する」と述べたように、日本の財政悪化は周知の事実です。にも拘わらず岸田政権はバラマキを続けています。もし現在の円安が日本の財政破綻を織り込むものであれば、円安に歯止めが効かなくなりハイパーインフレになることもあり得ます。これが最悪シナリオです。岸田首相は早急に今のバラマキ路線を修正し、矢野氏の提言に従いバラマキから財政再建への路線修正を図るべきでしょう。



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。